

それいけ！オレンジガール 第13回  
苦しんでいるのは、あなたただけではありません！  
相談することで救われることもあります。

今回は、認知症のご家族の介護をされた市内の63歳の女性の方のお話を紹介します。

■介護体験談②

義母は、今年92歳で他界しました。20年近く認知症を患っておりまして。認知症の発症当時、私は、病気に対する知識がほとんどなく、認知症と気がつくまでに数年かかりました。

ある日、義母が『お金をしまい忘れた。』と叫び出した

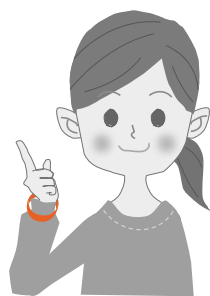
のがきっかけで、それがはじまりでした。その後は様子を見ておりましたが、入浴拒否、幻覚、幻聴、イライラなどの症状が頻繁になり、私も困り果てて、市へ相談しました。相談の結果、介護認定を受け、まずは、『お風呂に入れていただきたい』と思い、週2回のデイサービスを利用するようになりました。でも、拒否することが多く、送りだすのも大変でした。

その後、藁にもすがる思いで、市の地域包括支援センターへ相談したところ、家族の会「虹の会」を紹介していただきました。（広報7月号P5参照）

会の皆さんは、私の介護に対する悩みや、困っていること、今の気持ちなど全て聞いてくださり、話しながら『心がまるで青空のようにスーッと晴れていく』のが分かりました。また、体験談やアドバイスもいただき、認知症という病気を私なりにだんだん理解できるようになりました。

会の皆さんは、それぞれ認知症の家族を抱え、大変な苦勞をしてきた人たちばかりでした。皆さんと交流をしていくうちに、『私の義母はまだしっかり歩け、会話もでき、皆さんに比べ、まだ楽な方だ。』と思えるようになりました。このことから介護に対する考え方も、かなり前向きになってきたように思います。

亡くなる2年ほど前から、トイレの回数も多くなり、ほとんど眠れない日々が続いておりましたが、『家が一番いい』という義母の言葉に、



『最後まで家で看取ってやりたい！』との思いでがんばりました。

今にして思うと義母の介護は、私一人では到底できませんでした。仕事をやめ、介護に専念してくれた夫、会の皆さん、いつも励ましていただいた親戚やご近所の皆さんなど、たくさんの方々の方々の心の支えがあったからだと感じています。いっぱいばいばい。

■支え合いが大切です

認知症は、早期発見が重要ですが、脳の中で起こる病気のため、周囲が気付くまでに時間がかかってしまうこともあります。認知症の症状が進んでしまえば介護が大変になってきた時には、一人で抱え込まずに、誰かに相談してみることも大切なことです。

■お問い合わせ

もの忘れ相談センター  
(保健福祉センター内)  
☎2314464

みんなで学ぼう！  
認知症

認知症に関する  
DVDを  
配付しました！



市では、多くの方に認知症に対する知識や理解を広めるため、県が公益社団法人認知症の人と家族の会山梨県支部「あした葉の会」の協力を得て制作したDVDを、各代表地区長にお渡ししました。あした葉劇団による認知症に関する劇も収録されており、認知症について楽しく学べる内容となっておりますので、地域でご活用ください。

■お問い合わせ

地域包括支援センター  
(保健福祉センター内)  
☎2314313